

作成日 2018年5月25日

改正日 2023年9月6日

# 安全データシート(SDS)

## 1.製品名及び会社情報

製品名 : ガラスコート ホイール用  
会社名 : 株式会社MonotaRO  
所在地 : 〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町2-183 リベル3階  
担当者名 : 商品お問合せ窓口  
電話番号 : 0120-443-509  
FAX番号 : 0120-289-888  
緊急連絡先 : 所在地と同じ  
推奨用途及び使用上の制限 : 一般工業用  
整理番号 : M230921

## 2.危険有害性の要約

最重要危険有害性及び影響 : 引火性液体

GHS分類 :

物理化学的危険性	引火性液体	区分2
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分4
	生殖毒性	区分1B
	誤えん有害性	区分1

環境に対する有害性

環境に対する有害性 危険有害性の分類に該当するという情報は有りません

\* 記載のない危険有害性は、「区分外」「区分対象外」または「分類できない」である。

## ラベル要素

絵表示



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報

: 引火性の高い液体及び蒸気  
生殖能又は胎児へ悪影響のおそれ  
皮膚刺激  
飲み込み、気道に浸入すると生命に危険のおそれ

注意書き

【安全対策】

使用前に取扱い説明書を入手すること。全ての安全注意をよみ理解するまで取り扱わないこと。熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。容器を密閉しておくこと。容器を接地すること/アースをとること。防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。火花を発生させない工具を使用すること。静電気放電に対する予防措置を講ずること。保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。粉じん、ヒューム、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。取り扱い後はよく手を洗うこと。

[応急措置]

火災の場合：消火するために適切な消火剤を使用すること。飲み込んだ場合：直ちに医師の診断・手当を受けること。無理に吐かせないこと。皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。多量の水と石鹼で洗うこと。暴露又は暴露の懸念がある場合：医師の診断/手当をうけること。眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズは外して洗うこと。吸入した場合：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

**【保管】**

密閉容器中に保管すること。  
換気の良い場所で施錠して保管すること。涼しい所に置くこと。

**【廃棄】**

内容物／容器を国際／国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄すること。

その他危険有害性情報

本品は水、湿気及び空気中の水分と反応して(加水分解)、下記の化合物を生成する。

メタノール、1-ブタノール

想定される非常事態の概要

熱、火花、または炎で発火する可能性がある。生殖に影響をあたえることがある。

3.組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物(シリコーン溶液)  
官報公示整理番号(化審法) : 有り  
官報公示整理番号(安衛法) : 既存  
成分及び含有量 :

成分	含有量(%)	化審法	CAS番号	安衛法
アルコキシシラン	20-25	(2)-2052	1112-39-6	(2)-2052
アルコキシド	1.5-5	非公開	非公開	非公開
メタノール(不純物)	0.1-0.5	(2)-201	67-56-1	(2)-201
合成イソパラフィン系炭化水素	40-50	(2)-10	68551-17-7	既存
└2,2,4,6,6-ペンタメチルヘプタン	└ >32->40	(2)-10	13475-82-6	既存
分解生成物(表記対象外生成量)				
1-ブタノール	<0.05	(2)-3049	71-36-3	2-(8)-299

化審法：全成分材料メーカー登録保証

4.応急処置

吸入した場合 : 新鮮な空気の場合に移動させ安静にし、必要に応じて医師の診断を受ける。  
飲み込んだ場合 : 揮発性の液体なので、嘔吐させるとかえって危険が増す。無理に吐かせず直ちに医師の診断を受ける。水で良く口の中を洗ってもよい。  
皮膚に付着した場合 : 多量の水および石鹼で洗い流す。症状が出た場合には、必要に応じて医師の診断を受ける。  
目に入った場合 : 直ちに清浄な流水で15分以上洗浄した後、医師の処置を受ける。コンタクトレンズをしていて容易に取り外せる場合は取り外す。刺激が強まったり続く場合には医師の手当てを受けること。  
応急措置をする者の保護 : 暴露又は暴露の懸念がある場合：医師の診断/手当を受けること。医療スタッフに物質が何であるかを伝え、自身の保護措置にも気をつけさせる。  
医師に対する特別注意事項 : 症状に応じて処置すること。

5.火災時の措置

消火剤 : 粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、  
使ってはならない消火剤 : 水、棒状水  
特有の危険有害性 : 加熱及び火災により有害な蒸気/ガスが生成されることがある。有害性ヒューム

特有の消化方法 : 火災や爆発の場合、ヒュームを吸入してはならない。もし危険を冒さずにできる場合は、火災区域から容器を移動させる。流出水は環境に有害性の懸念あり。

消火を行う者の保護 : 消火作業では保護具(手袋・眼鏡・マスクなど)を着用する。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、  
保護具及び緊急時措置 : 可能な限り保護具(手袋・眼鏡・マスクなど)を着用し、作業は風上から行う。関係者以外立ち入り禁止する。流出が著しい場合は現地当局に通告する。

環境に対する注意事項 : 漏出物を直接に河川や下水、海域に流してはいけない。

除去方法 : 多量の場合は土砂等の不燃物で囲って流出を防止し、スコップ又は吸引機などで空容器に回収する。回収後の残留物は土砂又はおがくず等に吸収させる。残留物がごく少量の場合は大量の水で洗い流す。少量の場合は吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。

二次災害の防止策 : 情報無し

7.取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 製品を取り扱う時に使用する全ての装置は、接地しておく必要がある。火花を発生させない工具及び防爆型装置を使用する。蒸気は、空気と混合し、爆発性混合物を生成することがある。適切な換気を行う。

安全取扱い注意事項 : 使用前に取扱説明書を入手すること。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。取扱い/保管は慎重に行うこと。裸火、熱源または発火源の近くで、取り扱ったり、保管したり、開けてはいけない。直射日光に当てないようにする。禁煙。静電気の放電防止策を施す。ミスト又は蒸気を吸入しないこと。長時間の暴露を避けること。妊娠中または授乳中の女性はこの製品を取り扱ってはならない。環境への放出を避けること。排水路に流してはならない。

接触回避 : 「10.安定性及び反応性」を参照。

適切な衛生対策 : 休息前や製品取扱い直後には手を洗う。適切な産業衛生および安全対策のもとに取り扱う。

保管

安全な保管条件 : 施錠して保管すること。熱、火花、裸火から離して保管。容器を密閉しておくこと。  
換気の良い場所で保管すること。子供の手の届かない所で保管すること。  
直射日光が入らない、涼しく乾燥した場所に貯蔵すること。

安全な容器包装材料 : 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度(暴露限界値)および管理濃度  
作業環境評価基準(昭和63年9月1日号外、労働省告示題9号)別表

成分	タイプ	形状	数値
メタノール(不純物)(CAS 67-56-1)	管理濃度		200ppm
分解生成物	タイプ		数値
1-ブタノール(CAS 71-36-3)	管理濃度		25ppm
日本産業衛生学会—許容濃度			
成分	タイプ		数値
メタノール(不純物)(CAS 67-56-1)	TWA		260mg/m3
			200ppm

分解生成物	タイプ	数値	
1-ブタノール(CAS 71-36-3)	最大許容濃度	150mg/m <sup>3</sup>	
		50ppm	
ACGIH			
成分	タイプ	形状	数値
アルコキシド	TWA	吸入性粒子	1mg/m <sup>3</sup>
メタノール(不純物)(CAS 67-56-1)	STEL		250ppm
	TWA		200ppm
分解生成物	タイプ	数値	
1-ブタノール(CAS 71-36-3)	TWA	20ppm	

#### 生物学的限界値

##### 日本産業衛生学会—生物学的許容値

成分	数値	決定要因	標本	サンプル採取時間
メタノール(不純物)(CAS 67-56-1)	20mg/l	メタノール	尿	*

\* サンプルの詳細については原資料をご参照下さい。

##### ACGIH生物学的許容値

成分	数値	決定要因	標本	サンプル採取時間
メタノール(不純物)(CAS 67-56-1)	15mg/l	メタノール	尿	*

\* サンプルの詳細については原資料をご参照下さい。

#### 暴露ガイドライン

日本産業衛生学会職業暴露限界: 皮膚指定

1-ブタノール(CAS71-36-3) 経皮吸収性がある。

メタノール(不純物)(CAS67-56-1) 経皮吸収性がある。

米国ACGIH許容濃度:皮膚

メタノール(不純物)(CAS67-56-1) 経皮吸収性がある。

設備対策 防爆型の全体及び局所排気型換気装置。洗眼設備を設置する。

#### 保護具

呼吸器の保護具 : 有機ガス用防毒マスク

手の保護具 : 不浸透性保護手袋

目の保護具 : 側板付き保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣、ゴム長靴

#### 9.物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
色	: 透明～淡黄色
臭い	: わずかに特異なにおい
融点/凝固点	: データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	: 82°C(179.6°F)[アルコキシラン]
可燃性	: 引火性の高い液体
爆発限界及び爆発上限界/可燃限界	: データなし
引火点	: 6°C (密閉式)
自然発火点	: >200°C(>392°F)

分解温度	: データなし
pH	: データなし
動粘性率	: 1.07mm <sup>2</sup> /s(40°C)
溶解度	: 不溶(加水分解)
n-オクタノール/水分配係数(log値)	: 該当せず
蒸気圧	: 11kPa(25°C)[アルコキシシラン]
密度及び/又は相対密度	: 0.97 (25°C)
相対ガス密度	: 4.1(空気=1.0)[アルコキシシラン]
蒸発速度	: >1 (酢酸ブチル=1.0)
粒子特性	: データなし

## 10.安定性及び反応性

反応性	: 水、湿気及び空気中の水分と反応する。 強酸化剤と反応し火災や爆発の危険がある。
化学的安定性	: 通常の条件では安定
避けるべき条件	: 特になし
混合危険物質	: 強酸化剤、過酸化物質
危険有害な分解生成物	: 本品は水、湿気及び空気中の反応して(加水分解)、下記化合物を生成する。 メタノール、1-ブタノール 加熱又は燃焼により下記の分解生成物を発生する可能性がある。 一酸化炭素、二酸化炭素等の酸化炭素類、不完全燃焼により生成する 微量の炭素化合物。二酸化ケイ素、ホルムアルデヒド、金属酸化物
その他	: 情報無し

## 11.有害性情報

成分	種	試験結果
アルコキシシラン		
亜慢性		
経口NOAEL	ラット	250mg/kg bw/Day
急性		
経口LD50	ラット	4235mg/Kg
メタノール(不純物)		
吸入LC50	ラット	64000ppm、4hr 87.5mg/l、6hr
経口LD50	ラット	5628mg/Kg
経皮	ウサギ	15800mg/Kg
合成イソパラフィン系炭化水素		
経口LD50		2000mg/kg以上
分解生成物		
1-ブタノール(CAS71-36-3)		
急性		
吸入LC50	ラット	8000ppm、4Hr
経口LD50	ラット	790mg/kg
経皮LD50	ウサギ	3400mg/kg
皮膚腐食性/刺激性	: 皮膚刺激	1-ブタノール ウサギで中くらいの皮膚刺激性 合成イソパラフィン系炭化水素 未知成分が0.1%以上含有のため、分類できないとした。

眼に対する重篤な損傷/刺激性	: 生成物のメタノール、1-ブタノールが強い眼刺激性を有しているが表記対象外の生成量であるため対象外とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作	: 情報無し
生殖細胞変異原性	: 情報なし
発がん性	
ACGIH発がん性物質	アルコキシド A4ヒトへの発がん性分類できない
生殖毒性	: 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ。(生成物メタノール)
特定標的臓器・全身毒性-単回暴露	: 生成物のメタノールが中枢神経系、全身毒性、視覚器に悪影響のおそれがあり麻酔作用がある。1-ブタノールが気道刺激性、麻酔作用を有しているが、共に表記対象外の生成量であるため対象外とした。
特定標的臓器毒性(反復暴露)	長期にわたるまたは反復暴露により下記の臓器に影響を与える可能性があるが表記対象外の生成量であるため対象外とした。 中枢神経系、視覚器(メタノール) 中枢神経系、聴覚器。(1-ブタノール)
その他の情報	本品は水、湿気及び空気中の水分と反応して(加水分解)、化合物(メタノール、1-ブタノール)を生成する。

## 12.環境影響情報

### 環境影響データ

成分	種	試験結果
メタノール(不純物)(CAS67-56-1)		
水生		
魚類	LC50	ファットヘッドミノー >100mg/l, 96hr
甲殻類	EC50	オオミジンコ >10000mg/l, 48hr
分解生成物		
1-ブタノール(CAS71-36-3)		
水生		
魚類	LC50	ファットヘッドミノー 1630-1840mg/l, 96hr
甲殻類	EC50	オオミジンコ 1897-2072mg/l, 48hr
生態毒性	: 知見なし	
残留性・分解性	: 大気中または水中で容易に加水分解する。	
生体蓄積性	: データなし	
土壤中の移動性	: データなし	
オゾン層への有害性	: データなし	

## 13.廃棄上の注意

焼却処理。但し、高引火性の為ご注意ください。焼却の際、シリカの微粉が生成致しますので適切な設備での焼却をお願い致します。また、必要に応じて防塵マスク等の保護具の着用をお願い致します。廃棄物処理法の許可を受けた業者に処理を委託する。本物質を下水や供給設備に流さないこと。内容物/容器を地域/地方/国/国際規則に従って処理すること。

## 14.輸送上の注意

### 国内規制

陸上輸送: 消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。

海上輸送: 船舶安全法に定められている運送方法に従う。

航空輸送: 航空法に定められている運送方法に従う。

### 国際規則

航空輸送はIATA及び海上輸送はIMDGの規則に従う。

### 国連分類・国連番号

陸上輸送(ADR/RIDの規則に従う)

国連番号

UN1993

	品名	Flammable Liquid n.o.s.
	国連危険物分類	3
	容器等級	II
海上輸送(IMOの規則に従う)		
	国連番号	UN1993
	品名	Flammable Liquid n.o.s.
	国連危険物分類	3
	容器等級	II
	海洋汚染物質	: 該当せず
	IBCコード	本品はバラ積輸送用ではありません

航空輸送(ICAO/IATAの規則に従う)

	国連番号	UN1993
	品名	Flammable Liquid n.o.s.
	国連危険物分類	3
	容器等級	II

輸送の特定の安全対策及び条件 国内輸送については  
15章の規制に従うこと

“漏出時の措置”を参照  
輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。  
転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を  
確実にを行う。  
直射日光を避ける。  
該当法規に従い、包装、表示、輸送を行う。

MARPOL73/78条約の付属書II及びIBCコードによるバルク輸送： 本製品は、ばら積み輸送用ではありません。

緊急時応急措置指針番号 128

15.適用法令

国内適用法令：

労働安全衛生法

危険物

引火性の物

特化則	第一類物質	該当せず
	第二類物質	該当せず
	第三類物質	該当せず

有機則	第一種有機溶剤	該当せず
	第二種有機溶剤	該当せず
	第三種有機溶剤	該当せず

通知対象物質 メタノール

表示対象物質 メタノール

毒劇物取締法：

特定毒物、毒物、劇物、 該当せず

消防法：

第四類第一石油類(非水溶性液体)危険等級II

化学物質の審査及び製造等の規則に関する法律

第一種特定化学物質、第二種特定化学物質、監視化学物質  
該当せず

優先評価化学物質 2, 2, 4, 6, 6-ペンタメチルヘプタン  
(メタノールは2022年3月31日に対象外になりました)

化学物質排出把握管理促進法

特定第一種指定化学物質、第一種指定化学物質、第二種  
指定化学物質(物質名、政令番号、含量)

該当せず

高圧ガス保安法：

該当せず

火薬類取締法：

該当せず

船舶安全法：  
航空法：  
海洋汚染防止法

引火性液体類  
引火性液体類  
該当せず

#### 16.その他の情報

- ・GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)(JIS Z 7253:2012)
- ・国際化学物質安全性カード(ICSC)コンパイラズガイド 日本語版国立衛生試験所化学物質情報部編、化学工業日報社、1994年
- ・製品安全データシートの作成指針(改訂版)厚生労働省医薬局審査管理課化学物質安全対策室・厚生労働省労働安全局安全衛生部化学物質調査課・経済産業省製造産業局化学物質管理課・環境省環境保健部環境安全課監修、(社)日本化学工業協会
- ・日本レスポンシブル・ケア協議会、平成13年10月
- ・日本界面活性剤工業会、SRA-GHS分類判定(2006.2)
- ・日本界面活性剤工業会、MSDS作成ガイドラインと主要製品の標準MSDSモデル(平成13年11月)
- ・(社)日本化学工業会、GHS対応ガイドライン暫定版 製品安全データシートの作成指針改定2版、平成18年5月
- ・(株)三菱総合研究所、平成19年度経済産業省委託事業 GHS分類基準等の基盤整備事業報告書、平成20年3月

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作製しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。すべての化学製品には未知の有害性が有り得るため、取り扱いには細心の注意が必要です。御使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定下さるようお願いいたします。また、特別な取り扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上でご使用ください。当安全データシートは、日本国内法規を基準に作成したものです。